

議事要旨入り

富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

第4回 令和5年12月16日

はじめにお読みください

本資料は、当日配布資料をもとに、議事要旨を加筆したものです。

なお、当日配布以降に加筆したページは、ページの枠上部を橙色にしてあります。

【凡例】

※当日配布のままのページ

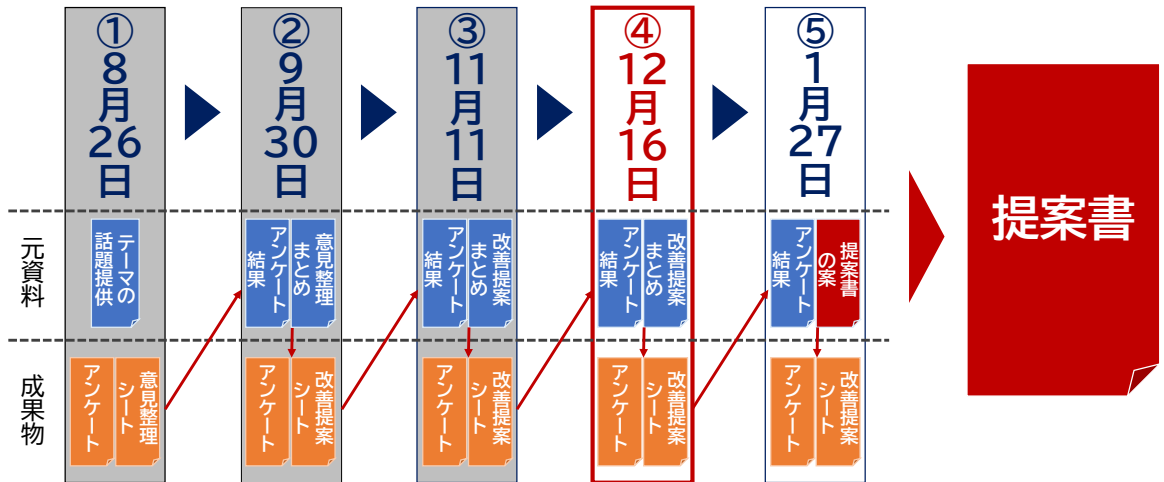


※加筆ページ



▶ 令和5年度 開催スケジュール

全5回の会議を経て、テーマにまつわる地域課題と改善提案をまとめた「富岡地区円卓会議からの提案書」を作ります。



これまでの振り返り

▶ これまでの振り返り

身近な問題を他人ごと・他人任せにせず、 “自分ごと”で考えて解決方法を話し合う場

■ 色々な人々が集まる

地域のことを良く知る人

- 地域づくり協議会
- 区長

地域で暮らす人

- 「無作為抽出」で選ばれた人
- 市内高校生

行政職員

- 地域づくり協議会応援隊
- テーマ有識者

■ 進め方

シナリオはつくらない

テーマに関する **参加者の意見から生まれた論点** から議論を発展させていく。

生活実感から課題を見つける

地域が抱える様々な**悩み・困りごと**を、実際に暮らしている人々の手によって明らかにしていく。

■ “自分ごと”で考える

「自分はどうかしたいか」

- 「何をすべきか」ではなく、「**どうかしたいか**」が入口。
- 他人のせいにならないために「**個人でできること**」、「**地域でできること**」から考える。
- **言いつばなしで終わらない**ように、具体的な課題と改善策を話し合う。

▶ これまでの振り返り

第1回では、富岡地区における「地域の居場所づくり」の “ありたい姿”と“現状”について意見を集めました

「私の居場所」ってどんな場所

「居場所とは何か」、私の「落ち着く、楽しい、安心するところ」はどこか？

- 自分の趣味・好きなことに集中できる場所
- 趣味趣向が合う仲間同士で過ごすところ
- 誰かの役に立てる場所
- 誰かに必要とされる場所



「ありたい姿」の本質

困っている誰かと、その人が今いる場所

身の周りで居場所が少ない(または無い)ことで困っている人は？
その人が今いる状況・場所は？

- 高齢者
- 子ども・子育て
- 障がい者とその家族
- 未婚・単身・若者
- ペット飼育、趣味、…など



富岡地区の「現状」

富岡市の居場所づくり

行政による支援事業
「ふれあいの居場所」

- 勉強会や研修会
- 設立補助金
- 設立希望者の個別相談対応
- 事業内容によって職員を派遣

▶ これまでの振り返り

第2回では、第1回の意見整理結果から、
グループごとに異なる個別テーマを決めて課題を探し、
第3回では、より詳しく解決方法を話し合いました

メインテーマ 地域の居場所づくり

グループ1 子ども・子育て

グループ2 未婚・単身・若者

グループ3 障がい

グループ4 高齢者

▼ これまでの会議の成果

アンケート

改善提案
シート

▶ これまでの振り返り

第3回までの成果を詳しく振り返りましょう

① アンケート結果

富岡地区円卓会議「自分ごとで考える“地域の居場所づくり”」
第3回アンケート結果 令和5年11月11日実施分

回答結果：参加者 21人、回答者 16人(回答率 76%)

1. 富岡地区円卓会議に参加してみたいかでしたか。(回答15件)

回答	人数	割合
1. 参加したい	11	73.3%
2. 参加したくない	1	6.7%
3. 参加したくない理由	0	0%
4. その他	3	20%
合計	15件	

2. 機会の進行は良かったか。

(1)全体コーディネーター(回答16件)

回答	人数	割合
1. とても良かった	11	68.8%
2. 良かった	4	25%
3. 普通	0	0%
4. 悪かった	0	0%
5. とても悪かった	1	6.2%
合計	16件	

▼感想

- 企画が、目的にそって意見がうまくまとまった。
- 議案を共有した上で話し合えたので、話が理解することが多かった。
- 参加者の機嫌をよからせていけたりやすくて交流が、各参加者したの音が、とてもよく伝わりました。
- 具体的な意見・ながら進んでいって良かった。
- 参加者の意見が共有されました。
- 専門家の人がおり、勉強になった。
- 参加の機会に感謝。
- 時間が早く終わった。
- 進みが早かった。
- 楽しかった。
- 参加者が多い。
- 全員が平均的に参加した。
- 話しやすかった。
- 関係がよくなりやすかった。

② 改善提案シート結果

富岡地区円卓会議
自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

第1～3回提案 中間とりまとめ

▶ これまでの振り返り

これまでの提案をまとめるにあたり、大きく3つにわけました

I 居場所づくり全般【P.1】

- これからの「居場所づくり」【P.2】
- “孤立”を見つける・未然に防ぐ【P.3】
- “居場所”を知る・知らせる【P.4】

II グループごとの話題【P.6】

- 高齢者【P.7】
- 子ども・子育て【P.9】
- 障がい者とその家族【P.13】
- 若者・単身【P.17】

III 「地域活動」に対する想い【P.19】

- やらされ感を無くしたい

概略を説明します。
お手元の資料をご覧ください。

▶ これまでの振り返り

提案を整理した結果を見ると… 「情報発信」に関して、何となく課題感を持っているようです

▼第1回の意見傾向(第2回にて提示)

ジャンル傾向

さらにその内容から傾向を見ると、個別にターゲットを絞った意見と、共通的な意見にジャンル分けできます。

【個別ジャンル】

- 1. 高齢者
- 2. 子ども・子育て
- 4. 障がい
- 5. ペット
- 8. 未婚・単身
- 9. 若者

【共通ジャンル】

- 3. 趣味
- 6. 情報伝達
- 7. デジタルデバイス

「情報発信」

誰が・どうやって
情報発信する
と行き届く？

▼第3回までの提案

	スポーツ交流する。*
行政*	●「障がい」の壁を感じずにコミュニク ●そのための準備、計画、備品の用意 ●「活動、地域」の役割を担う。*
その他*	●情報提供する。*
改善* 提案*	●SNSを駆使して情報を広める。*
団体*	●「ふれあいの居場所」の活動の一環 ●障がいに関する講演を開催する。*
地域*	●近所にいる障がいを持つ人を把握! ●SNSを駆使して情報を広める。*
	●地域の活動に障がい者も参加 ●スポーツクラブ等と障がい者が一 ●特別支援学校と地元区長会がタイ

これからの話し合いに向けて

▶ グループワークに向けて

これまでの成果をもとに、以下の4つを個別テーマとします
※出欠状況にあわせて、再度グループメンバーを調整しました

グループ1	子ども・子育て
グループ2	若者・単身
グループ3	障がい
グループ4	高齢者

共通テーマ

対象とする人たちに
情報を行き渡らせるには、
どんな方法がある？

▶ 課題と改善策の見つけ方

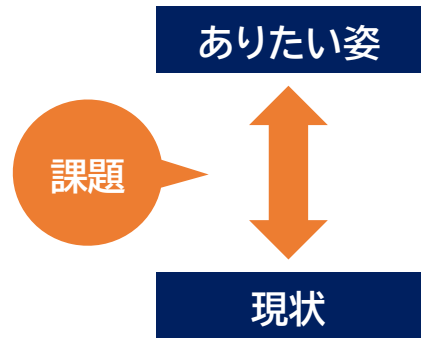
次の考え方で、課題について話し合います

課題＝「ありたい姿と現状のギャップ」

- 「自分が目指す姿」を考え、「現状」を知り、比べることで、課題がはっきりしてきます

私たちの「ありたい姿」と「現状」は？

- みんなの考える「私がいたい場所」が、居場所づくりにおける「ありたい姿」の本質
- 身の回りにいる“困っている人”が今いる場所、おちいつている状況が「現状」

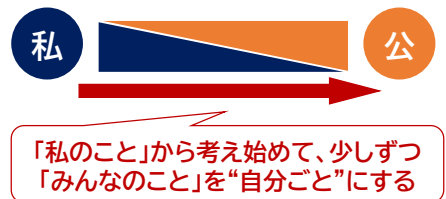


▶ 課題と改善策の見つけ方

課題に自分ごとで向き合う

どうすれば課題を解決できるか、自分の身の回り、生活の中で感じることから考えて、少しずつ広げていきましょう

- 私にできること・一人ひとりができる → 個人の役割
- ひとりでは無理だけど、何人か集まればできそう → 地域の役割
- 広範囲・一律的な取り組み、決まり事が必要 → 行政の役割
- いち住民や行政だけでやるには向いていない → その他(企業など)



▶ 改善提案シート

今回のゴールも、みなさんが「改善提案シート」を書くことです。
ここに書く内容を、グループワークで見つけてください。

【記載イメージ】

課題	公園が利用されていない	議論を踏まえて感じた現状の課題を記載
	(だれが)	(何を)
改善提案	個人(私)	知らない公園が多いので把握する
	地域	草刈りなど、公園整備をサポートする 休憩用のベンチを提供する
	行政	(市)街の中にある遊び場の情報を、市 全体から収集する (公民館)地域サロンを開き、地域に特 化した情報を、地域住民へ提供する
	その他 ()	個人や地域、行政以外で、 改善をお願いする主体があれば記載 (民間企業やNPOなど)

課題とその解決に向けた方法を記載
◆だれが?
◆何を?

改善提案シートには、
「グループの総論」ではなく、
「話し合った結果、私の考えたこと」
を書く。

- ここに書かれた内容が「提案書」に反映されていく。
- グループで発言されなかった内容や、他の人たちと違う考えを書いてもOKただし…
 - ▶ 他人任せにしないために「個人でできること」、「地域でできること」から考える。
 - ▶ 言いっぱなし・他人任せで終わらないために、なるべく具体的に。

▶ この場のルール

誰かの発言中は「聞く」姿勢

- 頭ごなしに否定してはいけません
- 発言をさえぎってはいけません
- ファシリテーターだけはSTOPをかけられます！

年齢・肩書・立場に こだわらない&気にしない

- 重要なのは“誰が言ったか”ではなく“何を言ったか”
- 「偉い人がこう言った。だから私の考えは間違っているんだ」と思わない
- 「コイツ若造のくせに…」もNG

かっこつけない

- 「すごいこと言ってやろう」と思わない
- 生活する中で感じることから生まれる考えこそ本質

「自分ごと」で考える

- 「誰かがやればいい」ではなく、「これなら私にもできる」を考えのベースに
- 周りの人、企業、行政のことといった「誰か」のことも「自分に関係のあること」として捉える

▶ グループワークに向けて

これまでの成果をもとに、以下の4つを個別テーマとします
※出欠状況にあわせて、再度グループメンバーを調整しました

グループ1	子ども・子育て
グループ2	若者・単身
グループ3	障がい
グループ4	高齢者

共通テーマ

対象とする人たちに
情報を行き渡らせるには、
どんな方法がある？

▶ グループワーク

グループ1 子ども・子育て

▼父親の居場所

- 母だけでなく父の居場所も考えたい
- 昔は平日仕事・休みだけ子守りが当たり前だし、仕方なかった
- 「父親とキンカ堂」
デパートなので、いろんなものがある、母親も父親も子どももキンカ堂が交流の場だった

▼食に関すること

- 「ごはん何にする？」
「なんでもいいよ」
(イラッ)
↑これをなくしてあげたい
- むかし献立さいころみたいなのが
あった
- 家族で協力して、冷蔵庫の中身をパズルみたいにマッピングして、中身を把握しておく

▼なぜ情報が行き届かない？

- 多くの子どもが対象となるコンテンツに関する情報発信でも、なかなか行き届かない(どんとまつり。募集期間を過ぎてから連絡してくる親御さんがいた)
- LINEでの発信は、伝わりやすいだろうけど、頻度が多いと見なくなる・読む気をなくす
- クーポンも同時配信して、中身を読むとクーポンがもらえるようにしたら読むようになるのではないかな？
- 市のHPのように、色々な情報が載っていても、情報量が多すぎて迷子になる・読みづらい…

▼なぜ情報が行き届かない？

- 交流の場や、情報共有の場として、子育て健康プラザが使えるのではないかな？
- けれど、公共施設(あいあいプラザ・子育て健康プラザ)いろいろあるけど、空き状況が家から簡単に見られない
空き状況を簡単に見られるようになれば良いのに

▼その他子育て世帯について

- 子育てしている親は、祖父母が近くにいと頼りやすいのだろうと思った

▶ グループワーク

グループ2 若者・单身

▼現状

- 回覧板・広報・館報…
いろいろあるけど、若者は見
ていない
 - 文字ばかりで読む気も起
きない
 - 親が見て終わり。子の手
元には届かない
 - 市の公式LINEも登録し
ていない
- では、どうやって情報を得て
いるのか？
 - 学校で配られるチラシ、
街にあるポスターで情報
を得ている

▼では、どうやって情報を得てい るのか？

- 「文字ばかりだと読む気も…」
とはいえ、重要なものは文字
のはがきでも見る
- でも若者が情報をキャッチす
る大部分は、学校で配られる
チラシや街にあるポスターだ

▼情報発信に求められるもの

- まずは「デザイン」
- デザインが目を引き、読む気
を起こす
- そして中身のコンテンツがよ
ければ、興味を持ってもらえ
る
 - デザインをつくる時、若
者も参加すれば見やすい
 - ターゲット年代によってイ
ラスト・配色を変える

▶ グループワーク

グループ3 障がい

▼地域へ伝える

- 障がいにも個性・種類がある
それが伝わっていない
- 交流する場所がない
- 人は、自分が興味があるところの情報だけキャッ
チしている
- きっといつも見ている情報媒体の中に、キャッチ
しきっていないいろんな情報が載っている
- 目を引くために、映像やポスターで訴えかけたい
- デジタルサイネージ(市役所1Fロビーにあるよう
な電子掲示板)で、障がいについて情報をもっと
流す

▼障がい者へ伝える

- 施設・支援学校に、行政からの広報誌などを配
る・置く
- 障がいは特別なものではなく、一つの個性
- 地域だけでなく、障がいを持っている本人に
もそれをわかって欲しい
- 本人が自分の障がいについてどう思っている
かを見つめなおす

▶ グループワーク

グループ4 高齢者

▼普段の情報発信・キャッチ方法を整理

- LINE
 - 長文だと見ない
- メール
- 広報とみおか・公民館報
- 地区の回覧板
 - 情報量多すぎて読まない
- 全般的に、見ただけで終わって、何もしない

▼「対面」でのフォロー

- 城町で、LINEをおくった上で直接対面で情報を伝えたところ、地域活動への参加率が上がった
- 防災ラジオ、特殊詐欺防止の電話録音装置の助成も申請率が上がった
- 対面だと、説得力が増す
 - 他の手段と組み合わせて対面で伝えることで、うまく伝わり、信頼度・説得力が増す
 - しかし、これを誰がやるのか…区長・区長代理だけではフォローしきれない

▼これからの情報発信の基本的な考え

- 何か集まるイベントがあったときにフォローを重点的にやっていく
- 地域に暮らす高齢者の状況の把握に努める
 - これまでの提案にも出ていた基本的な思想が、やはり大事

▶ 感想

- 久々の参加で、どう進んでるか、どういう意見が出ているのか、どんな人がいるのかわからず不安だったけど、みんながフォローしてくれてうれしかった。
- 情報発信をどうするか？って、あまり考えたことがなかった。機会を与えてくれてうれしい。
- 「こうした方がいい・こうなった方がいい」とただ思うだけでなく、「では、誰がやるのか？」と考えるは難しかった。
- いま妊娠しているけれど、これまででは子育てに対して身構えることはなかったが、今日子育てについて話し合う中で、色んな人の意見を聞いて不安な思いも出てきた。
けれど、話し合いの中でみなさんのやさしさにふれて、こんな地域だったら安心して子育てできそうだなと思えた。